

雫石町立小学校適正配置基本計画に係る説明会
会議録（下長山小学校開催分）

平成25年11月12日

雫石町教育委員会

平成25年11月12日雫石町立小学校適正配置基本計画に係る説明会を開催した。

場 所 下長山小学校1階ホール

時 間 19時00分～20時25分

1. 出席者

一般住民 17人

2. 事務局から説明のために出席した職員

雫石町教育委員会教育委員長 上 野 宏

雫石町教育委員会教育委員 上 田 武 夫

雫石町教育委員会教育長 吉 川 健 次

雫石町教育委員会学校教育課長 高 橋 啓 二

雫石町教育委員会学校教育課主査 田 辺 茂

3. 書 記

雫石町教育委員会学校教育課主任 坂 井 一 博

4. 開会宣言

田辺主査 寒い中、ご足労いただきありがとうございます。適正配置基本計画について説明会を始めさせていただきます。初めに教育委員長から。

委員長 夜分お忙しい中、お集まりいただき大変ありがとうございます。ご承知のとおり、少子化の波が押し寄せ、日本全国同様に雫石町でも急激に子供達の数が増減。平成 24 年度は、全町で 852 名。わずか 6 年後には 700 名を切って 698 名の予定。それに伴い、町内 10 小学校のうち、複式学級を持つ学校が半数以上の 6 校に。複式学級は、2 学年以上の子供達と同じ教室で学習をするが、少人数なので担任の先生の目が行き届き、和やかな中で学習活動を進められるいい面もあるが、一方で、色々な意見を聞けないなど、教育活動を集団で出来ないマイナス点もある。また、担任の直接指導時間も単式の学級の子供達に比べると半分になり、非常にハンデも負うことになる。集団的な教育活動も出来にくくなる難点がある。21 世紀の今、特に子供達に求められている力は、多くの意見を聞いて、そこで自分の意見を練り直し、それをみんなに発信していく力。そういう学習集団としてお互いに磨き高めるために、ある程度のある学級がこれからの学校には必要。

そこで町内の小学校を見直し、適正な規模にしようと、平成 24 年度に小学校適正配置検討委員会を立ち上げ、2 月に提言書をいただいた。この提言書を踏まえて教育委員会で 6 回ほど会議し、色々検討した結果が、本日の基本計画書。私共は、子供達の教育環境をより良いものに整えることを第一に考えて検討を重ねてきた。どうか、質問や前向きなご意見等をたくさんいただき、この基本計画をより良いものにしていきたい。

田辺主査 [説明会参加の事務局の紹介]

学教課長 [以下、適正配置基本計画を資料に沿って朗読し、内容の説明]

田辺主査 基本計画に関わって皆様から質問ご意見等承ります。挙手でお願いします。

参加者 町政懇談会時にも申したが、私自身、町の広報やインターネットで調べられる範囲で情報を見聞きし、色々考えた結論を申し上げますと、基本計画に沿った統合も良いが、抜本的な対応が取られないと、少子化が進んで止められなくなる。平成 30 年度の 1 年生、西山 3 校を併せても 20 人弱。恐らく、30 年度どころか 40 年度まで見通しても同様。学校単位は 130 人で、これすら下回ってくるような状況を考えなくてはならない。具体的な数字のイメージはなかったが、町長に申したのは、地区ごとの統合を一步進めて雫石で 1 校にまとめる。さらに、小学校と中学校を連携して雫石の新しい時代に対する教育を申し上げた。要するに 30 年後に評価される判断を今の保護者、或いは違う小学校の OB、諸先輩の皆さんで、30 年後によかったと言われるような判断をする。今、産まれたばかりの子供が社会に出て評価を得られるように成長し、あの小学校で教育されて良かった、あの時に

いい判断してもらったと、言ってもらえる判断を相当なエネルギー覚悟でやった方がいい。

班長で下長山小の運動会のプログラムを各家庭に配っていた時に、80 歳ぐらいの女性に、今小学生はどれぐらいの人数がいるか聞かれた。子供の数が極端に減って団体競技もままならず、競争できなければならないから、中学校みたいに 1 つにすればいいのでは、との話だった。私は、小中連携を模索している部分が沢山あって、雫石としてそうあればいいと思っていた時に話されて正直驚いた。私が色々頭を捻くり回して思い立ったことを、その方はいとも簡単にそう話された。細かい部分は、どう考えて話されたかは分からないが、その年代の人も家庭で相当議論されていると感じた。

この先、西山地区で子供が大変多く生まれるような状態になるのはまず難しい。そうすると西山小かどうかはわからないが、下長山小の建築年数を見ても 10 年 15 年経てば建て替えの話が出てくるかもしれない。その時に児童数はどのくらいになっているか。将来予測はどう出ているか。その辺の問題を考えないと、無駄とは言わないが、抜本的な解決策にはならない。色々問題もあるかと思うが、私自身の結論は、小中一貫教育として 1 校に集約する。私は、教育現場で働いたことはないので、理解してもらえなければ何とか突破し、もう少し時間をかけて 1 校統合、小中連携形を考えればいいのではと考えた。

学教課長 確かに将来を見つめた場合に、教育委員会としても小学校 1 校、中学校 1 校の一貫教育を考える。ただ、そうすると、現在小学校全体で約 900 人。これをどの時点で統合するか。今の子供達の将来を考えると出来るだけ早い段階から、ある程度の集団で教育させたい。小中一貫校となると 1 校の小学校を新たに建てなければならない。それなりの規模の学校だと 20 億以上かかるかと。さらに、小中一貫校となると中学校の施設をどうするか、今、改修工事もしており、それらも含め、今すぐではなく将来的に 10 年スパンで考えて小中一貫校での検討は、可能である。今の子供達がこのままでいいかどうかを考えると、出来るだけ早く集団で学習活動をさせたいこともあり、あと地域性も考慮して今回の計画にした。

もう 1 点、今回、雫石町を 2 校にすればどちらも適正規模にはなるが、そうすると一番大きい雫石小の学区を 2 つに区分しなければならない。行政区との関わりもあり、さらには 2 ヶ所に新しい校舎を建てなければならない。雫石小を除くとどの学校も 1 学級。2 学級はできないので、新たに建てなければならないが、それが 2 ヶ所だと非常に難しい。将来の子供達の児童数の推移を見ながら、将来的には小中一貫校も当然検討しなければならない。

参加者 敷地内の駐車スペースが狭い、低学年用プールがないと挙げられていて、結局増改築と見ていると思うが、何をどう直すか具体的な計画は立っているか。あと、統合した場合、下長山は遊具が少ないので設置してもらえるか。それよりも低学

年用プールがないので本格的に設置していただけるか。あと教室の現状。図書室は名ばかりで会議室になっている。実質、図書室がない。これが非常に問題。その辺についてもどう考えているか伺う。

学教課長 以前から低学年用プールはなく、台を付けたり工夫して使用され、保護者の方にはご迷惑をおかけしている。新しく設置するのは難しい部分があるかもしれないので、増設という形で検討しなければならない。それから、図書室等についても、物置のようになっている部分、開いている部分を壁にしてそこを図書室でも図工室でも一つの教室的な形で増改築を進めたいという案はある。決定すれば、統合までには図書室等々は増改築、プールは予算の見積もり等の関係があるので、その辺は検討する。遊具については、必要な分に関しては当然設置したい。

参加者 それは、27年度中に終わらせるのか。統合は28年4月1日。

学教課長 プールは難しいが、図書室や遊具等は、当然統合する前までに整備しなければならない。それ以外にも色々出てくる。できるものはできるだけ早めに対応したい。

参加者 駐車場が足りない部分はどうするか。

学教課長 体育館の裏はスペースがあって結構広かったかと。もし駐車スペースにするなら、舗装して整備も考えなくてはならない。ただ、他の土地を買って駐車場を増やすことは難しい。あと、ここは大型車が入りづらい。そこは少し広げる対策を講じなくてはならないと考えている。

参加者 もしスクールバスが来るとなると、Uターンの問題も出てくるのでは。

学教課長 関係してくる。本当は、子供達を少しでも歩かせたい。どこか安全な離れた場所子供達を降ろして歩かせることも考えたい。

参加者 今の話にまつわって、統合に備えて、学校の敷地ではないが周りの道路の整備も必要かと。西山線、どこも必要だと思うが、自転車通学なり、親御さんの送迎なり、どれぐらい混雑するか予想できないし、その辺を考慮して道路を広くする必要はあるかと思う。そういったことも是非考慮されればいい。

学教課長 県道から入って門までの間のことか。

参加者 範囲は分からないが、例えば、雨や雪の日は送り迎えになると思うし、晴れの日、自転車通学となれば、具体的なものは特にはないが、考慮してやっけないと、まして登下校は先生の目は届かないので、小学生からすれば危ない状況。さらに上長山や西根から自転車使ったりすれば怖いので、やはり道路の部分も手をかけた方がいいかと。

学教課長 登下校の安全対策部分は、考えなければならない。小学生の自転車通学は、現在ほとんどの学校が禁止で、こちらとしては考えていないので、今後も禁止かと。当然、スクールバスの送迎を考えている。校門の前までスクールバスで行って子供達がほとんど歩かないより、安全確保をしつつ、子供たちを少しでも歩かせて

健康につながればいいのかとと思っている。スクールバスの運行と合わせて検討しますし、皆さんからの意見も入れる。県道の歩道は、ほぼ整備されているので、県道部分については特に考えなくていいかと。町道部分は、道路状況を見ながら考えたい。この辺は危険箇所だ、といった部分があればお知らせいただきたい。

参加者 今後の予定を伺う。まず、小学校区ごとの説明会部分、皆様方から様々な意見を集めるだけか、集めた意見をまとめてまたこのような説明会を開くかを伺う。もう一点(2)の統合準備委員会が、26年度中とあるがいつ頃を目途にしているか。

学教課長 意見集約は、当然まとめる。色々な意見が出れば、再度説明が必要な場合も。要望が出れば何度でも説明する。意見集約した部分や町全体で出て来た意見は広報等で周知したい。1回の説明で理解したとはならないと思う。今回は、PTAの皆さんを中心に広報での周知だったので、地域に伝わったかは、少し不安。再度、何らかの手段、例えば区長さんに依頼して周知を広めて、もう一度開催することも考えている。色々意見が出て、1~2回ではご理解いただけない部分も多々ある。何度も行き、更に今年度で理解いただければ、来年度に伸びる可能性もある。そのあたりも考慮し、準備委員会は地区の理解が出た段階で進みたい。28年を目途にするなら26年に準備委員会を設置しないと間に合わない。今回の説明会の進み具合で準備委員会を設置していく形になると思う。

参加者 準備委員会は、西山、御明神、御所の3地区に分かれて行うのか。

学教課長 はい。統合対象校同士で一学区の捉え方。3地区で組織する形で考えている。

参加者 話が早く進むところは早く始められるし、進まなければ順次決めてからと。意見集約したものはホームページなどで見られるようになるか。

学教課長 はい、ホームページに掲載したい。

参加者 下長山小の校舎の使用が有利だが、上長山小や西根小からは反対意見が出ると思う。下長山小の校舎の利用が覆ることがあるか。それとも使用のまま前進するのか。

学教課長 教育委員会として出した結論は、こちらの小学校を使うのが一番有利と捉え、その方向で進めたい。あとは、理解していただけるかどうか。考えられるのは、親御さんに盛岡にお勤めの方もいると思うが、子供達の送迎はスクールバスとしても、帰りに児童クラブ等に預けている方は、寄ってすぐに帰れる。そうでないと上長山小まで行ってまた戻る方が多数おられると、場所を考えなくてはならない。それで下長山小と考えた。その理解を得られるよう説明したい。

参加者 ぜひ、よろしくお願いします。

参加者 この統合とは離れるかもしれないが、学校図書館支援員、国と自治体で半分ずつ補助金というか助成金を出して、24年から5年間ぐらい作業する制度があると町の図書館関係者から伺った。雫石町ではその活動はないのか。

学教課長 12学級以上の学校には学校図書司書という資格を持つ教員が配置される。それ

以外は、配置されてない。町としては町の図書館に図書ボランティア、各学校で図書ボランティアをお願いしている学校もある。助成制度は、考えていない。

参加者 統合した後もこういうものは考えないか。

学教課長 その辺は検討したい。逆に学校数が少なくなれば、町立図書館でも図書関連の協力がスムーズに行くかとも思う。

参加者 町立図書館まで送っていける人はいいかもしれないが。

学教課長 向こうからこちらに来る。

委員長 図書館職員が、定期的に学校に来て整理とかをする形をとればいかと。そのために図書館でやっている図書整理ボランティアを養成し、今年度何校かに入ったりした。そういうのを使っていこうかと。

参加者 正直、何の本が学校にあるかまでは把握していない感じが見受けられる。町立図書館まで行けない子供達は、学校図書が大事。その辺を重要視していただきたい。

教育長 団体貸出という制度もある。多分、下長山小も教員なり児童の代表なりが行って、1ヶ月や3ヶ月という形で借りて回している制度。多分、そちらも利用しているかと。それから、図書ボランティアの方がそれぞれ学校に定期的に入り、図書整理や読み聞かせ、読み聞かせボランティアも別にあるが、そういったこともやり出した。

参加者 一点、学校備品や学校設備、要求してもなかなか修理や購入いただけないと。正直、子供の教育に対する予算は、重点的に取っていただきたい。次代を担う子供達なので、雫石町のために活躍するかも、あるいは日本のために活躍するかもわからない。これからの人材のために是非とも予算を割いていただきたい。不備なところはなるべく直して、足りないものは補充していただきたい。切実に思う。

学教課長 財政的な部分もあるが、危険な場所や授業等で学校生活に影響が出る部分は、優先度を決めている。教育費については予算措置されており、他の市町村に比べて見劣りしないかと思う。

教育長 毎年、ちょうど今ぐらいに、足りない物とかの要求を請求していただき、優先度を決めて整備している。諦めないで要求してほしい。私も色々な市町村を歩いたが、雫石町は、教育にかかる予算を結構高い比率でやっている感じを受ける。

学教課長 災害の発生で大きな部分の工事はある程度制約していかなくてはならない。教育に影響のないようやりたいが、大きな事業費を有する部分はある程度制約されるのはやむを得ない。こちらで色々頑張りたいが、そこは懸念される部分。

参加者 適正化の問題に風穴を開けようとする姿勢は、大きく評価したい。長い間動きがなく、子供達には本当に申し訳なかったと、住民として感じる。まだまだ先は長いし、事務局は本当に相当のエネルギーが要るか。この計画に従うと、難しいところはどんどん進むと思うが、西山地区は、旧西山部落の名残があつて

様々な意見があるはず。何で下長山小だという話は、尾を引いていく。ここは、不満の共有もあるので、後々まで気持ちのずれがないよう、それが子供達に伝わらないよう、十分に意見を吸い上げながら、きちんと話を聞いて進めてほしい。西山地区だけ多少遅くても仕方がない。子供達には苦労や心配をかけないように。他で進行しても、西山は、致し方ないところがあれば期限を超えてでもしっかりやってもらいたい。事務局の意見も子供達にとってよりよい教育環境、勉強としているし、いかに子供達の能力を引き出し、高められるかは行政の大きな責任である。今後どう考えるか。

学教課長 十分に意見を吸い上げ、それぞれの地域の了解、理解を得ながら進めたい。ご協力よろしくお願ひします。あと、子供達の能力を高める部分、それは学力だけでなく、知得体のバランスのとれた子供達を育てるのが、学校にかけられた想いかと思う。子供達が将来社会人として一人で生きる能力を高めることも必要。まずは学力面、当然、学校だけでは非常に難しい。やはり、家庭の協力を得ながら。家庭学習も合わせて、町全体で教育振興運動を軸にやらなければならない。秋田県は、全国学調でトップを取っている。隣の県となぜ違うか、違う部分を色々分析したが、やはり教員の指導力、子供達をいかに集中させる授業が行われるかの部分の差はある。岩手県の教員もそれほど落ちてはいない。秋田県と比較してみると、家庭学習するかという設問は、雫石町が90%で秋田県も同じくらい。ただ、宿題以外の予習復習部分が異なる。秋田県では、復習を60~70%、予習を60%の子供達が取り組んでいるのに対して、雫石町では、復習する子は40%を切っており、予習に関しては20%程度。そのくらいの差がある。秋田県では、家庭学習の在り方が違う。昔からの取り組みで家庭学習が定着した。雫石町でも、すぐに実践と言っても非常に難しい部分があると思うが、学校でも宿題の出し方について工夫するよう言っている。あとは、家庭の協力もいただきながら取り組みたい。

5. 閉会宣言

教育長 雪がちらほらしてきた状況、夜遅くお集まりいただき大変ありがとうございました。雫石町で1校というご意見は、検討委員会でも教育委員の話し合いでも出てきたが、現在の子供達の複式の解消をなるべく早くと願ひ、そして現在の校舎の耐用年数がまだあるところで、このような基本計画を立てた。児童にとってより良い教育とは何かを第一に考え、ある程度的人数の中で切磋琢磨できる教育活動を大切に考えていきたいということで、この基本計画となった。現在、雫石町内10校のどこの学校も素晴らしい学校経営で、子供達も素晴らしいが、社会性を身につけたり、子供達の間で練り上げて考えたりする点は、人数が少ないと思ったようにできないこともある。この基本計画を十分ご理解いただき、雫石町の子

供達を育てて参りたい。県内の学校も複式を有する学校はだんだん統合され、先生方でも複式学級経験者が、少なくなっている。雫石町で初めて複式学級の指導となると相当負担にもなり、なかなか2学年を一緒に指導することも難しい。この基本計画にご理解をいただき、教育委員会としては進めて参りたい。